

**人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」  
「アクティブ・ラーニングイベント」を5月21日より開催  
～ICTを活用し学年・地域の垣根を超えた協働学習で21世紀型能力を身に付ける～**

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、ICTの活用により学年・地域の垣根を超え、これからの時代を生きるための「21世紀型能力（※1）」を身につけることを目的とした「アクティブ・ラーニング（※2）イベント」を5月21日（土）より開催します。

（※1）21世紀型能力

国立教育政策研究所がこれからの学校教育で育成すべきであると提案した、生きる力として求められる日本型資質・能力の枠組み。「思考力（問題解決発見力、論理的・批判的思考力等）」を中核に「基礎力（言語・数量・情報スキル）」「実践力（自律的活動力、人間関係形成力等）」の三層構造で構成されている。（参考：国立教育政策研究所）

（※2）アクティブ・ラーニング

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。（参考：文部科学省）

「アクティブ・ラーニングイベント」とは、ICTの活用により学年・地域に関係無く1つのテーマについて議論し、「21世紀型能力」を身に付ける協働学習型のイベントです。

独自のソーシャルネットワークワーキングツールを用いて個人の意見をWEB上で議論した後、株式会社ドコモ gacco のオンライングループワークシステム「gaccatz（ガッカツ）」を利用したオンライン討論会を開催します。グループは学校や塾といった垣根を超えて構成されるため、より多様な考え方に触れて洞察を深め、コミュニケーション力や協調性を養うことが可能となります。

加えて、学習塾や学校でチームを組んでレポートを提出してもらい、8月28日（日）に慶應義塾大学でレポートの上位3チームがプレゼンテーションを行う模様をWEB中継します。

（※イベント概要は次ページ参照）

文部科学省はICTを活用した「協働学習」や「アクティブ・ラーニング」といった課題解決型の授業スタイルを提唱しており、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を充実させていく、という方針を打ち出しています。今後の日本では、情報収集力・分析能力・課題発見能力・課題解決能力といった、21世紀型能力と呼ばれる“正解のない課題を解決する力”が求められており、子どもたちがIT化・グローバル化の進む社会で活躍する上で、非常に重要な能力であると考えられています。

すららネットでは、クラウド型学習システム「すらら」の学習で、日ごろ身につけられている「基礎学力」に加えて、「21世紀型能力」を身につけていくことも必要と考え、今回の「アクティブ・ラーニングイベント」を開催するに至りました。

## ■「アクティブ・ラーニングイベント」開催概要

- 開催期間：2016年5月21日(土)～2016年8月28日(日)
- 参加対象：「すらら」で学習している小中高生
- 監修：慶應義塾大学 教育経済学者 中室 牧子 准教（特別審査員）
- 協力：株式会社ドコモ gacco，東京大学大学院 情報学環 安齋 勇樹 特任助教

○テーマ：これからの時代にふさわしい、新しい小学校の科目をつくるとしたら、どんな科目がよいでしょうか？

(選定の背景)

「これからの時代に求められる力」を自分なりに考え、どのようにそれを身につければよいか工夫して考えることが求められる。子どもたちがどのように、学ぶ意味やこれからの時代に求められる力を捉え、新科目を提案するかに注目したい。

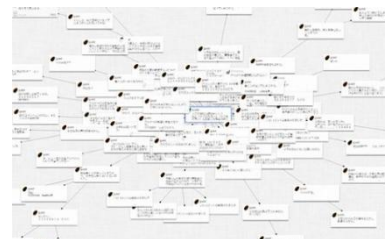
○イベント内容詳細：

①5月21日(土) ～ 6月17日(金)：個人の意見をWEB上で議論

テーマについての考察を深めるための議題を毎週設定し、独自のソーシャルネットワーキングツールを通じて個人の意見を議論。

### 【議題】

- Q1：(日本の小学校の一般的な小学校五年生の時間割を提示して) 海外の小学校や、あなたの通っている(通っていた)小学校では他にどんな科目がありますか。知っていることや、調べたことを書きましょう。
- Q2：Q1で挙げた科目は、なんのために、どんな力をつけるためにあるのでしょうか。考えたことや調べたことを書きましょう。
- Q3：これからの時代を生きる人には、どんな力が必要だと思いますか。考えたことや調べたことを書きましょう。
- Q4：新しい小学校の科目を一つ作るかわりに、今ある科目のどれか一つをなくすとしたら、どの科目をなくすべきだと思いますか。理由とともに書きましょう。



▲WEB上での議論のイメージ

②6月19日(日)：オンライン討論会

株式会社ドコモ gacco のオンライングループワークシステム「gaccatz」を利用し、①のQ3の回答で出てきた「これからの時代を生きる人に必要な力」をランダムに割り当てグループを結成。その力をつけるための新しい科目をグループ内で考え、発表。

【討論テーマ】文部科学大臣に提案する「〇〇の力」を身につけるための新しい科目を考える。



▲オンライングループワーク画面イメージ

③6月19日(日)～7月15日(金)：チームによるレポート作成・提出

塾や学校でチームを組み、エントリー後、レポートを作成。  
エントリー期間は5月16日(月)～7月15日(金)

④8月28日(日)：優秀チームによるプレゼンテーション

慶應義塾大学で提出されたレポートの上位3チームがプレゼンテーションを行い、その模様をWEB中継。

## ■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 30,000 名（2015 年 4 月末現在）

【特徴】

### ○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

### ○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

### ○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ  
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないうえやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ  
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないうえ、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ  
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



## ■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

## ■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

### ■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008 年 8 月 ○ 資本金：13,795 万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
  - ・ 第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
  - ・ Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
  - ・ 第 2 回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
  - ・ 第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)